国勢調査の結果をデータで見てみよう

出典：総務省統計局

◆増え続けた日本の人口、ついに減少時代へ

日本の人口は第１回国勢調査以来増加し続け、５５年間で２倍にも達しましたが、前回の調査で初めての減少となりました。平成２２年の調査と比べると、人口は９６万２６０７人減少しています。

その６ 旅行中だと宿屋の准世帯員?!

第１回の国勢調査では、『現在地』方式（10月１日０時時点の居場所で人口を把握する）であったため、10月１日０時をはさんで旅行中の人は、泊まっている宿屋の世帯員としてカウントされました。現在は、ふだんの状況を回答していただく、『常駐地』方式になっていますので、お間違いなく！

その７ 調査事項は８項目 とっても親切設計

第１回の調査事項は、分かりやすいように８項目とシンプルでした。その後、時代の要請により、項目数は変化し続け、今回の調査では19項目（設問は全16問）となっています。

また、当時の申告書は非常に分かりやすく書かれています(もちろん、現在も分かりやすいですよ)。例えば、上部には国勢調査の目的に加え、『記入の範囲』『記入の注意』、各欄にもていねいな記入心得が書かれていて、随所に分かりやすくするための工夫が見られます。また、ふりがなは漢字の読みではなく、『國民＝ひとびと』『生活＝くらしかた』『世帯主＝うちのしゅじん』など、明治以降につくられた熟語など当時なじみのない言葉を一般住民が理解できるように言い換えていました。

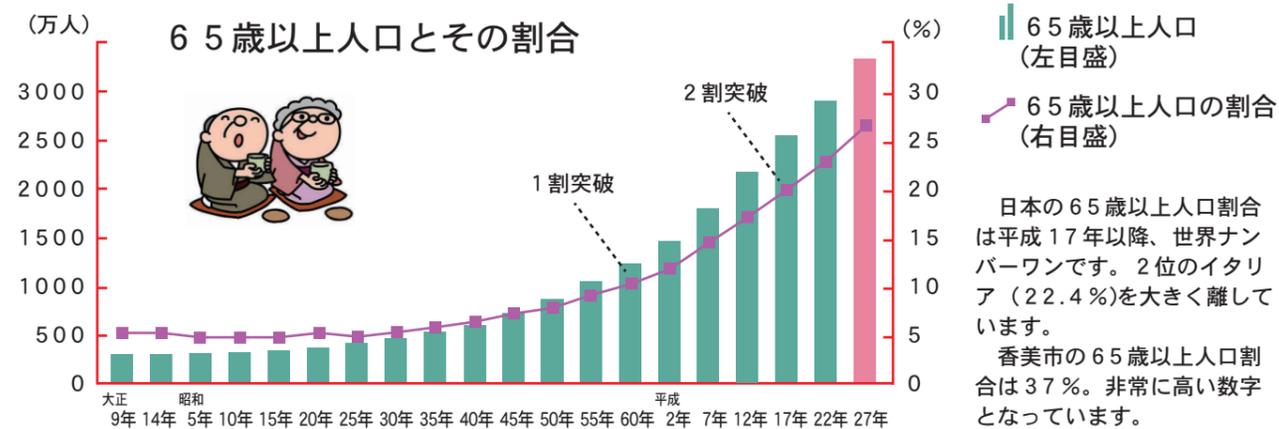
▲第１回国勢調査申告書

◆１００年前は、２０人に１人でした

第１回調査時、総人口の５.３％だった６５歳以上人口割合は、平成２７年調査では２６.６％と、１００年で５倍以上になりました。４人に１人が高齢者の時代になっています。

６５歳以上人口（左目盛）
６５歳以上人口の割合（右目盛）

日本の６５歳以上人口割合は平成１７年以降、世界ナンバーワンです。２位のイタリア（２２.４％)を大きく離しています。

香美市の６５歳以上人口割合は３７％。非常に高い数字となっています。

◆単独世帯が多くなっています

１世帯当たりの人数は、昭和３０年までは約５人でしたが、その後下がり続けています。夫婦のみの世帯や単独世帯の増加などにより縮小し、前回の調査では２.３６人となりました。

世帯数(左目盛)
１世帯あたりの人数（右目盛）

家族類型別割合で平成１２年には２７.６％であった単独世帯が、平成２７年には３４.６％と全体の約３分の１になっていることが原因の一つとなっています。その背景には、前回調査で未婚割合が男女ともに過去最高を記録したことなどがあります。

その８ 調査終了！ はたして結果は？

紆余曲折があった第１回国勢調査ですが、なんとか調査も終了し、結果が公表されました。当時の戸籍では人口５７６２万人となっていましたが、国勢調査の結果では、５５９６万人と１９６万人少なくなっています。戸籍では、届け出の間違いなどがあり、正確な人口をとらえられていなかったのです。また、人口構造や世帯の実態を明らかにするという点でも不十分でした。国勢調査は、近代統計調査として日本の新しい時代を切り拓いてくれたのです。今の日本があるのも国勢調査のおかげかもしれませんね。

出典：国勢調査１００年のあゆみ／総務省統計局